Java script で使用する変数。

プログラミング言語では、文字列や数値などのデータに名前をつけることで、繰り返し利用できるようにする変数という機能があります。

JavaScriptには「これは変数です」という宣言をするキーワードとして、 const、let、varの3つがあります。

今回は、 const、let、varの順番で、それぞれの方法で宣言した変数の違いについて見ていきます。

Const

Constキーワードは、再代入できない変数の宣言とその変数を参照する値（初期値）

を定義します。

次のように、Constキーワードに続いて変数名を書き、代入演算子（＝）の右辺に変数の

初期値を書いて変数を定義できます。

const 変数名 = 初期値;

let

letキーワードは、値の再代入が可能な変数を宣言できます。

Letの使い方はconstとほとんど同じです。

次のコードでは、bookTitleという変数を宣言し、初期値を"JavaScript Primer"という文字列であることを定義しています。

let bookTitle = "JavaScript Primer";

Var

Varキーワードは、値の再代入が可能な変数を宣言できます。

Var の使い方はletとほとんど同じです。

varでは、letと同じように初期値がない変数を宣言でき、変数に対して値の再代入もできます。

var bookTitle;

bookTitle = "JavaScript Primer";

bookTitle = "新しいタイトル";